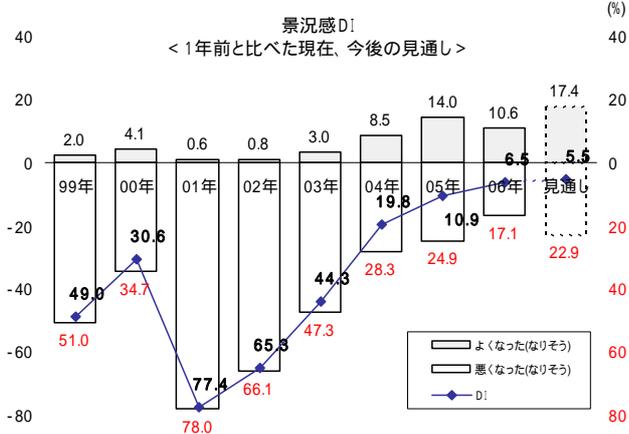


1. 景気・収入・支出・暮らし向きへの動向

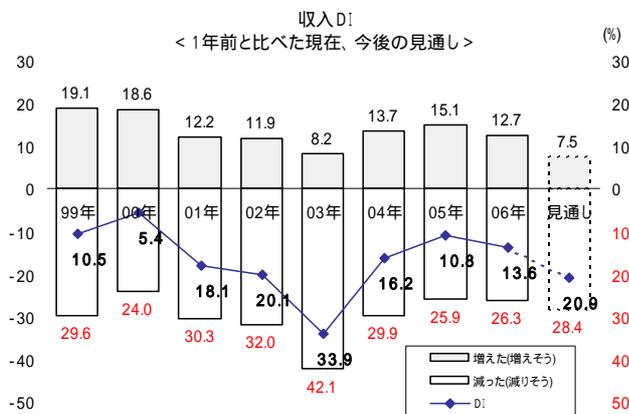
[景況感DI] 改善傾向続く

- ・景況感DI (1年前に比べ景気が「よくなった」という回答の割合から「悪くなった」という回答の割合を引いた数値)は、前回(05年調査)より4.4ポイント改善した。
- ・DIの水準としては、6.5と依然水面下ではあるが、5年連続の改善となり、1999年の調査開始以降、初めて1ケタのマイナス幅にとどまった。
- ・今後の見通しでは、さらに1ポイント上昇し、DIは5.5となる。



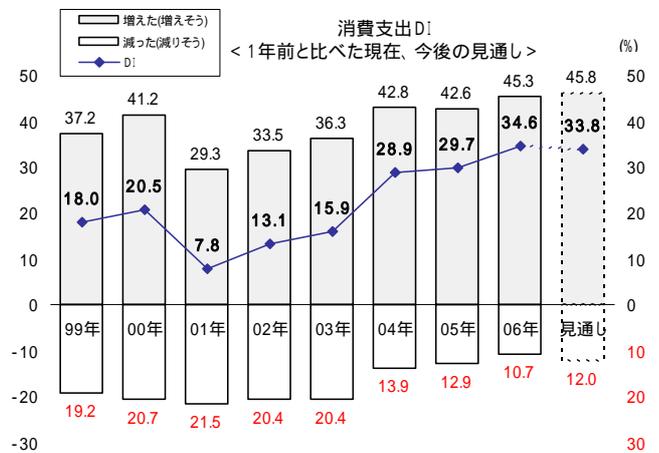
[収入DI] 再び悪化へ

- ・収入DIは、今回13.6で前回より2.8ポイント悪化した。今後の見通しは20.9と、さらに悪化するとみられる。



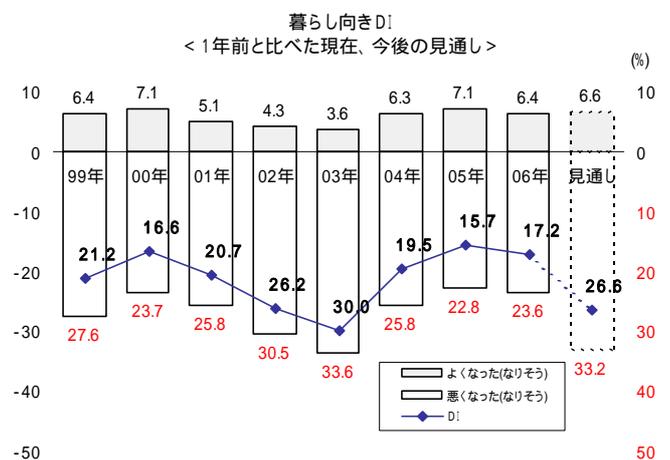
[消費支出DI] 5年連続上昇

- ・消費支出DIは、前回は4.9ポイントを上回る34.6となり5年連続で前年を上回った。これは原油価格高騰による物価の上昇や、通信費、医療費、教育費などにおける支出増加が影響しているものと思われる。
- ・今後の見通しでは、DIは0.8ポイント下がって33.8。景気回復が所得増加につながらない状況が続けば、消費者は財布のひもを引き締める恐れもある。



[暮らし向きDI] 景況感に連動せず

- ・暮らし向きDIは17.2で前回より1.5ポイント低下し、再び悪化した。国や企業レベルの動きと個人の生活レベルでの実感との乖離が表れた結果となった。
- ・今後の見通しは26.6まで落ち込む。

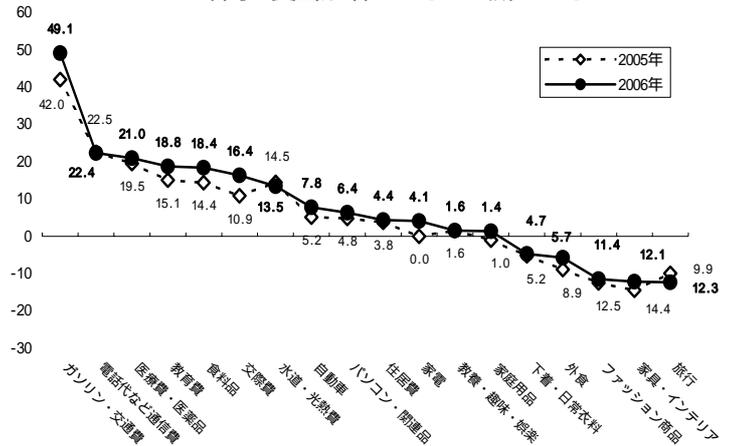


2. 費目別の支出動向

[費目別の支出] ガソリン・交通費が増加

- ・費目ごとのDI値が高かったのは、原油高騰を背景とする「ガソリン・交通費」の49.1で、前回調査より7.1ポイント上昇した。
- ・一方、DIがマイナスとなったのは、ファッション商品、旅行、外出といった支出を切り詰めやすい、いわば選択的消費にかかわる費目を中心であった。
- ・通信費、水道・光熱費、教養・趣味・娯楽、旅行を除く14費目は、DIの値が前回調査より数ポイントながら上昇している。

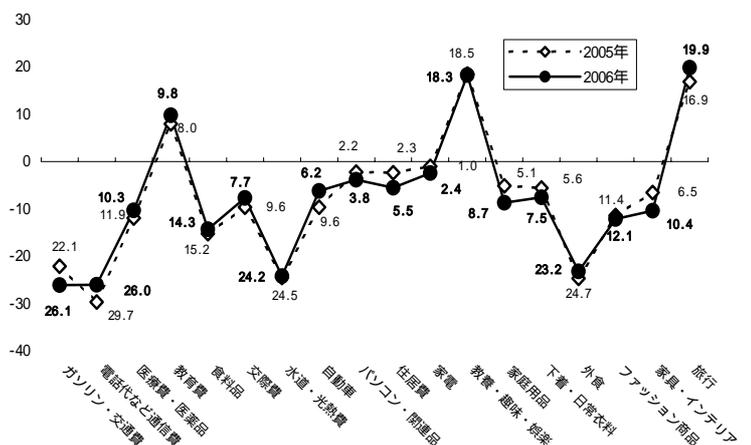
この1年間で支出が増えたもの・減ったもの



「この1年で支出が増えたもの」の割合から「減ったもの」の割合を引いた値

- ・今後については前回同様、教養・趣味・娯楽、旅行、教育費の3費目では、「増やそうと思う」が「減らそうと思う」を上回っている。なお、それ以外の15費目はマイナスで、依然として支出を抑えようという意向は強いようだ。

今後支出を増やそうと思うもの・減らそうと思うもの



「今後支出を増やそうと思うもの」の割合から「減らそうと思うもの」の割合を引いた値

3. 耐久消費財の購入

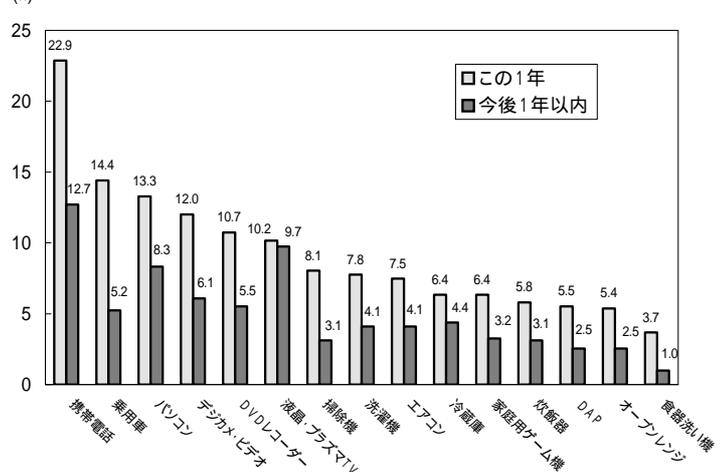
[この1年の購入] 高い携帯電話購入率

- ・最近1年以内に購入したのものとしては、携帯電話が最も多かった。特に30歳未満の若年層では31.6%が購入した。
- ・昨今の家電市場の主力商品である液晶・プラズマテレビの購入率は10.2%であったが、50歳以上では14.2%と高かった。

[1年以内の購入予定] 薄型TV、PCに注目

- ・携帯電話は、今後も潜在需要がある。
- ・液晶・プラズマテレビも、順調に買い替えが進むと思われる。購入者は若年層にまで広がりそうだ。
- ・パソコンの購入予定も上位にあがっており、ウィンドウズの新OS搭載機の発売が購入を促進しそうである。

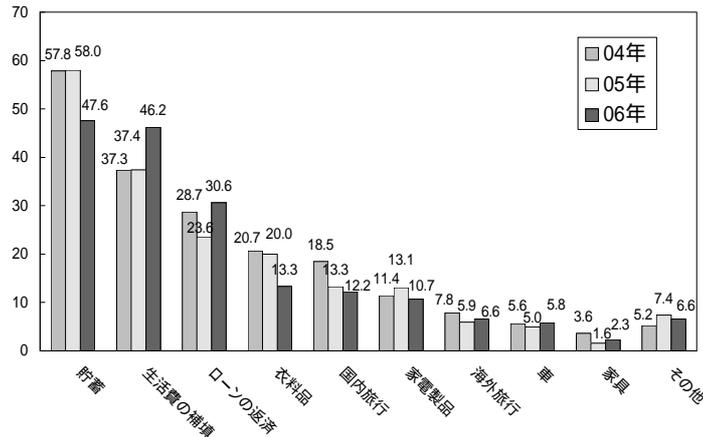
この1年に購入した耐久消費財
今後一年以内に購入予定の耐久消費財(複数回答)



4. ボーナスの使いみち

- [ボーナスの使いみち] 生活費補填が大幅増
- ・冬のボーナスの使いみちは、前回同様「貯蓄」が最も多かったが、その割合は前回より大幅に下がった。
 - ・代わって「生活費の補填」という回答が、「貯蓄」に迫る割合まで増加した。また、「ローンの返済」という回答も増加している。
 - ・貯蓄に回す額を減らして、増加する日々の支出に充てている様子が見える。

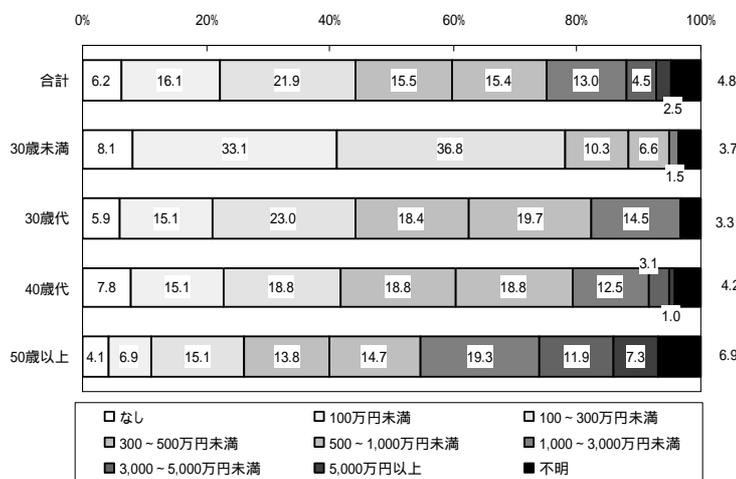
(%) 冬のボーナスの主な使いみち(複数回答)



5. 貯蓄・資産運用

- [貯蓄額] 高齢層はしっかり貯蓄
- ・現在の貯蓄額は、100万円～300万円未満という層が最も多く、0～300万円未満で4割を超えた。
 - ・年代別では、30歳未満の若年層では0～300万円未満が78.0%を占めたが、50歳以上では1,000万円以上の割合が3割超、うち60歳以上では半数以上を占めた。

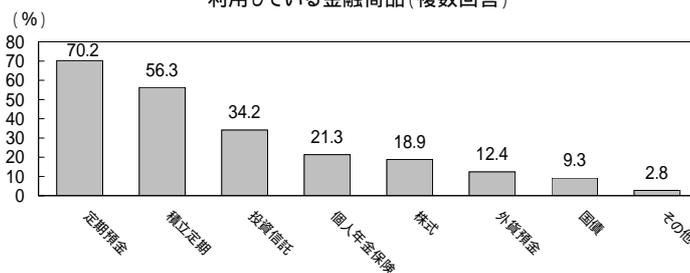
現在の貯蓄額



[資産運用] リスク商品への関心高まる

- ・最も広く利用されている金融商品は定期預金で、財形などの積立定期も半数以上、投資信託も3割以上が利用している。
- ・金融商品を選ぶ際に重視するポイントとしては、「利息・利回りが良い」という回答が最も多かった。
- ・04年に当社が行った金融リスク商品に関するアンケートでは「元本が保証されている」ことが最も重視されていたが、今回は8.7ポイント低下した。
- ・その一方で「将来の値上がりが見込める」ことが9.8ポイント上昇し、3番目に多くあげられた。安全性もさることながら、収益性に対する関心が高まっている。

利用している金融商品(複数回答)



金融商品選ぶ際重視するポイント(複数回答)

